

校則でメイクやヘアカラーはなぜ禁止？

3年2組3番 上脇 夢乃

1.はじめに

私はメイクやファッションに興味があり、SNSに上がっている動画からメイクを学んだり、新しいコスメの情報を得たりしている。ある時、SNSをみていると「白斑アイリストの毎日メイク」という動画が流れてきて、はじめに「白斑ってなに？」と思い目がとまった。

あるインスタグラムの投稿をみると、白斑とは尋常性白斑といって、皮膚の色を作る色素細胞が減ったり、消えてしまったりすることで顔や体の一部が白くなってしまう病気と知った。白斑は命に関わる病気ではないけれど、見た目上、深く悩んでいる方が少なくはない。アイリストのアンナさんの場合、顔の半分が白斑になったためまつ毛も白くなり、コンプレックスを抱くようになった。しかし、まつ毛エクステを知り、自分がアイリストなることで隠さずに毎日過ごせるようになったそうだ。しかし、動画のコメント欄で、「私も白斑だけど校則があるからメイクができない。」というコメントを数件目にした。私はこの動画を見て、アンナさんは学生でないから校則に縛られず、メイクやマツエクで自分に自信を持てるようになったけれど、同じ白斑の病気を持つ学生がいたら校則でコンプレックスをカバーすることができず、自信を持って学校生活を過ごせないのでは？と疑問を持った。このことから、そもそもなぜ学校ではメイクやヘアカラーなどが禁止されているのかが気になり、校則について探究していこうと考えた。

2. 序論

校則のはじまりは1813年に文部省が制定した「小学生徒心得」と考えられており、内容が細かくなったのは、1965年代の大学紛争での権利要求が中・高等学校に影響したことがきっかけで、特に髪型や靴、アルバイトなどの自由化が要求された。また、1980年代には校内暴力が頻発し“ツッパリ”が社会現象となり、服装や髪型などが乱れた学生が増加したことにより“服装の乱れは心の乱れ、”という風潮が広まり、校則が細かく厳しくなっていった。

そして近年では、“ブラック校則”が問題となっており校則の見直しを進める学校が全国的に増加している。“ブラック校則”が問題となりはじめたのは、2017年大阪府立懐風館（かいふんかん）高校の元女子生徒（22）が茶髪を黒くするように繰り返し指導され、精神的苦痛を受けたとして府に約220万円の損害賠償を求めた裁判がきっかけだ。訴状などによると彼女は生まれつき髪の色素が薄く、入学時に母親が「地毛が茶色なので配慮してほしい」と要請があったが、教員らは黒染めを強要し、何度も黒く染めたにも関わらず「不十分」と指導し「学校を辞めるか黒染めするか選べ」などと言われ2年生から不登校になった。

また彼女が不登校になった後、学校が名簿に彼女の名前を載せなかったり、学校に席を置かなかつたなどとし、学校側の対応を違法と認定した。このような生徒の人権を侵害する恐れのある“ブラック校則”が2019年頃から注目され、2021年に文部科学省が全国の教育委員会へ校則の見直しをするように通達したことにより、近年校則の見直しを進める学校が増えている。

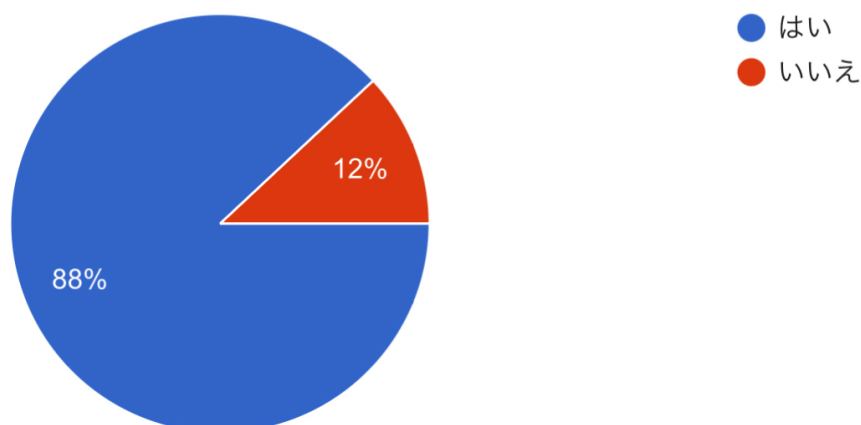
3. 本論

そこで本校でも校則の見直しをするべきだと考え、私の探究のテーマであるメイクやヘアカラーについて高校の3年生を対象にアンケートをとった。

1, 学校で自分の好きなメイクやヘアカラーをするのはいいと思う？に対して約90%の生徒が「はい」と答えた。その理由として、「勉強に悪影響しないから」「多様性や個性は大切だから」「社会にでたら見た目もマナーだから」「自分のモチベが上がるから」などの意見が多く集まった。反対に「いいえ」と答えた理由からは、「今は校則があるから我慢するべき」「華美すぎるメイクは見苦しいから」「学校の評判が下がるから」などの意見が集まった。

1.学校で自分の好きなメイクやヘアカラーをするのはいいと思う？

92 件の回答

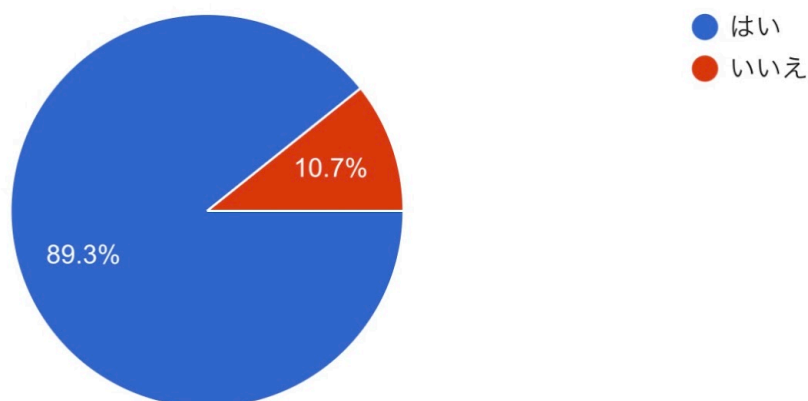


メイクやヘアカラーをしている生徒がいると「校則だから」と曖昧な理由で注意をされることがほとんどだが、私はそれを疑問に思う。学校は学業を学ぶ場であることは、高校も大学も同じなのになぜ大学生になるとメイクやヘアカラーが自由にできるのか。ただおしゃれをしたいからという理由でメイクやヘアカラーをする人がいるのはもちろんだが、白斑の病気をもつアンナさんのようにコンプレックスをメイクでカバーすることで自分に自信をもてる人もいることを知ってほしい。思春期である高校生は、ニキビや肌荒れがしやすく、また若白髪などのコンプレックスを抱えている人も少なくはない。そして、1の質問で「いいえ」と答えた人を対象に続けてアンケートをとった。

2, コンプレックスを隠すための場合、メイクやヘアカラーをするのはいいと思う？に対して、約90%の生徒が「はい」と答え、理由として、「いじめの原因が減るから」「自分に自信を持てるから」「学校にいきやすくなるから」「メイクはそういうものだから」などの意見が集まった。

2. 1でいいえと答えた人のみ！コンプレックスを隠すための場合、メイクやヘアメイクはいいと思う？ →病気の症状、肌荒れ、若白髪...

28 件の回答



私は本校での3年間でいじめを目にしたことはないけれど、コンプレックスを抱えながら学校に行くことはとても勇気のいることだと考える。

実際に、岐阜県の岐山高校ではメイク、ヘアカラー、制服の校則を1ヶ月間廃止して、1ヶ月後に教員や生徒達で1ヶ月間での気づきを話し合う取り組みをした。結果、メイクやヘアカラーをしたことにより学業の妨げにはならない事や、モチベーションや自信がついて良かったこと、改善点では化粧直しをする女子生徒達でトイレが混んで困った事や、香水の香りが気になる生徒もいることがわかった。また、生徒の意見からもう1、2ヶ月校則の廃止期間を延ばし、次回はテストの成績も視野にいれているようだ。

4. 結論

このように、学校でメイクやヘアカラーをしてもいいと考える生徒はほとんどであり、コンプレックスをカバーする目的のメイクだとさらに多くの生徒がメイクをしてもいいと考えている。しかし、派手すぎるメイクやヘアカラー、きつい香り、トイレでメイク直しなどは他の生徒への迷惑になる可能性があるため、最低限のマナーや相手への配慮は守るべきだと思う。

5. おわりに

ブラック校則による問題が増加していることにより、校則の見直しは全国に広がっているが、アンケートや話し合い、意見を集めるだけで実際に取り組みを進めている学校は少ないと考える。現代は、多様性や個性が重要視されていることやいきすぎた校則の指導による生徒と教員のトラブルを減らすためにも理由のない校則を見直していき、実際に改善していく必要があると考える。

6. 出典

日本経済新聞 「髪黒染め」校則は適法、府に一部賠償命令 大阪地裁

(2021年2月16日) <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOHC10AFC0Q1A210C2000000/>

(2024年12月10日)

NHK 「校則が厳しい学校、の改革日記①発足！ルールメイキング委員会

(2021年10月21日)

<https://www.nhk.or.jp/minplus/0012/topic017.html#:~:text=%E6%A0%A1%E5%89%87%E3%81%8C%E5%85%A8%E5%9B%BD%E7%9A%84%E3%81%AB,%E3%81%AB%E3%81%A%E3%81%A3%E3%81%A6%E3%81%84%E3%81%A3%E3%81%9F%E3%80%82>

(2024年12月10日)